

18 世紀からエジプトでは、考古学的に重要な遺跡や美術館などの文化財の保全、目録の作成、登録を行ってきた。現在、その権限はエジプト考古省が担っている。しかしながら、貴重な文化財に対する一般の人々の関心を刺激することは必ずしもうまくいっていない。

例えば、「エジプトとコプトの博物館の友達」といったグループでは、最近まで専門家以外の参加をほとんど受け入れてこなかった。それゆえ、文化財を扱うテレビ番組は退屈でよそよそしいものとなっていた。

「エジプトの政府機関はエジプトの文化財の優先度を観光客に与えてきた」とラウイ・マガジンの編集者、ヤスミン・エル・ドルガミは言う。

ドルガミは 2008 年に、きれいなデザインと写真を使用した歴史や歴史的遺産に関する情報を提供する出版物を発刊しようとした。

「私は若い世代で、2 カ国語以上話せるエジプト人をターゲットとしています。なぜなら彼らに私たちが持つ貴重な文化財に関する知識をもっと知ってほしいからです」と話す。ラウイ・マガジンは、様々なトピックと古代エジプトから現在に至るほとんどの歴史を含み、カイロだけでなく、大英博物館やルーブル美術館などの国際的な博物館でも見ることができるようになった。

「昨年 12 月にエジプト研究所で火事が発生した際には、非常に多くの人々が本の保全によることで協力してくれました。その時私は、多くのエジプト人が貴重な文化財の価値と重要性に気づいてくれていると思いました。彼らに必要なのは、彼らがいったい何を手伝えるのか、何をすべきなのかを説明することだけです」とドルガミは話す。これまでそのような説明は公共の文化財担当当局や教育、メディアによっても十分になされていなかった。

最近では、こういった文化財保存に関する知識不足を、講演や一般の人への呼びかけ、キャンペーンによって埋めようとしている。

「毎日新たなグループが生まれています」と「危険なエジプトの宝」の共同設立者であるダリア・ナビルは話す。「もし今回の革命がうまくいけば、私たちは無知や腐敗と戦い、物事を変えていける私たち自身の力を再び信じることができます。」

その他には古代の文化財や遺跡、そして都市や近代建築の保護を目的としたグループも誕生している。そのようなグループには、「エジプト美術保全の最前線」や「アル・モエズ通りを護れ」、「ヘリオポリス遺産協会」、「エジプト考古学の会」といったグループが含まれている。そして、特定の歴史的遺産の保護に力を注いでいるグループがある一方で、エジプトの文化財に対する一般の人々の意識を高めようとする動きもある。

このようなグループのほとんどは、カイロやアレクサンドリアといった場所に活動が限定されており、ヘリオポリスの一部では地元のコミュニティを巻き込んで都市と建築遺産の保護運動の拡大を見てきた。

ヘリオポリスでは、1905年に生まれた新イスラム建築からなる建物とオリジナルの近代的都市がバランスよく建てられていた。ヘリオポリスはベルギーの実業家であり、オローバ通りにあるバロン宮殿の所有者としても有名なバロン・エドアード・エンペインによって発案された。「危険なエジプトの宝」や「ヘリオポリス遺産協会」を含んだいくつかのグループは、こういった建物の保護を行っている。

ヘリオポリスの都市と建築遺産の記録、文書公開を通じて保護活動をしているナビルは、「我々のミッションは、これまで築かれてきた環境から、現在我々が直面している歴史建造物の喪失を防ぐことである」と言う。さらに重要なことは、彼らは様々な活動を通じてその地域の建築を護るために地元の専門家や学校、出資者や市民のイニシアチブに刺激を与えられるような試験的な活動も行っている点である。彼らは持続可能な保存修復の経験の共有という点に集中しており、それによって、関連する法案を施行する地方自治体に圧力をかけたいと考えている。

さらに最近では、「危険なエジプトの宝」がヘリオポリスの重要な建築を、許可なしに破壊しようとした所有者からその建物を守った。「私たちがこの件を関係当局に報告したとき、公共物破壊に関連する当局の対応の遅さが、これまでリストに挙がっていた建築物を護ることを妨げていました。それゆえ本当に建物の保護が必要な時でも、効果ある行動はとられることはなく、その結果、歴史的な建造物は失われてきたのです」とナビルは話す。

現在も行われているヘリオポリスの建物の破壊は、2つのグループに「ヘリオポリスの目」を設立させるきっかけを与え、それによってヘリオポリスでのいかなる破壊行為や脅威も監視できるようにした。「ヘリオポリスの目の目的は、ヘリオポリスにおいて画像記録やヘリオポリス内の歴史的建造物をモニタリングする監査委員会を作り上げることです」とナビルは語る。

グループ間の交流や活動内容の発信、講演、集会などのほとんどは、ソーシャルメディアを通じて行われている。「より多くの人々が我々の活動に参加しています。そしてその大部分が若い人たちです。こういったことを見ると、何らかの変化がすぐに起こるのだろうと思います」

「ヘリオポリスの目」の集会は、これまでは個人で建築遺産を護ってきた人々を集めることで成功してきた。「私は歴史や遺跡が大好きで、特徴的な様式が壊されているのを見て悲しくなっていました」とヘリオポリスの目で活動する建築家スザン・アル・フィキーは言う。「そんな風に人々に歴史や遺跡にもっと興味を持ってもらおうとする試みは、エジプト人のすばらしい遺産に気づくための最初の一步になると思います」

ブログ利用者もまたこういった活動に参加してきた。ミシェル・ハンは2年間定期的にカイロの建築に関して投稿を続けてきた薬剤師である。最近の投稿である「ヘリオポリスの栄光」は、一部あるいは完全に破壊されてしまったオリジナルのヘリオポリスの地域にある建物に関してであった。最近撮影された壊れた建物の写真の横に、白黒のまだ建物が残されていた当時の写真を並べ、その投稿にインパクトを与えている。「私はこういった活動や投稿がヘリオポリスの建物の破壊を止めることができる唯一の方法であると信じています」とハンナは語る。

「ヘリオポリスの目」の重要なパートナーであるのが、議員であり、政治学教授でもあるアミール・ハムザウィが始めた「ヘリオポリス遺産協会」である。

このグループの活動範囲は建築遺産の保護や文化遺産の保護など非常に多岐にわたっている。彼らは一般の人々の関心を得るために、ヘリオポリスの建築遺産の写真大会を開催した。それは毎週行われるガイドツアーで、参加した人が重要な建築物の写真を撮り、それらの地域の歴史や建築についての内容を教えてもらうことができる。「参加者は年齢、性別関係なく参加できます。参加者のほとんどは20代の若い写真家たちです」と今回の企画発案グループの建築家、アフメド・マンスールは話す。「彼らは、ガイドが話す歴史や古い道路の名前、そして現状から当時の様子を再現するために作られた写真などに非常に興味を持ってくれています。」

これらが示しているように、文化財保存の動きが2つの主要都市からデルタ地域やナイル谷といった地域に拡大する準備はすでに整ってきているのである。